総合特別区域評価・調査検討会における評価結果（平成24年度）の概要

２．分野等別状況　（２）地域活性化総合特区　④観光分野（1/4）

	評価区分（*1）	総合評価（ⅠとⅡの平均値にⅢを加味）	Ⅰ目標に向けた取組の進捗に関する評価	Ⅱ支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ現地調査時の指摘事項及び対応状況　等（*2）	総合評価に係る専門家所見（主なもの）
和歌山県「高野・熊野」文化・地域振興総合特区（和歌山県）	正	B 3.9	B 3.5 進捗度 ・世界遺産関連地域における観光客総数（延べ人数） 90% ・世界遺産関連地域における外国人宿泊者総数（延べ人数） 94% 等	B 3.8 規制の特例等 ・地域活性化総合特別区域通訳案内士育成等事業 財政支援等 ・重要文化財（建造物）修理事業等 地域独自の取組 ・和歌山県世界遺産緊急保全対策事業補助金（文化財の維持管理、災害時などの応急修繕等）　等	＋0.25	・通訳案内士育成事業は全国的に注目される重要な取組。また、世界遺産を持続可能な形で活用するため、満足度の高い観光地とするためには欠かせない要素である。その意味で育成事業が好スタート（※）を切れたことは評価したい。継続的なガイド育成に期待する。 ・水害など緊急事態（紀伊半島大水害（H23年9月））が発生して、遅延した部分（新宮市文化複合施設の建設の延期 等）があるが、全体としては順調。 ※平成24年9月に特区内限定通訳案内士育成研修の募集を行ったところ、定員80名を上回る120名の申込みがあり、24年10月から研修を開始。平成25年3月の口述試験において60名が合格し、4月から登録開始（高野・熊野特区通訳案内士第１期生が誕生）。

◆評価書はこちら　　◆評価結果はこちら

*1）「正」とは正評価、「準」とは準評価を意味する。　　*2）「Ⅲ」については、「地方公共団体による総合評価の状況について」も評価している。